

## 先端技術キーワード解説

# 知っておきたい最新の動き

## [FinTech (フィンテック)]

ITと金融サービスとの関係に、今、大きな動きがあります。FinTech (フィンテック) と呼ばれるものです。Finance (金融サービス) と Technology (IT 技術) を組み合わせた造語です。IT やネットワークを高度に活用して、既存の金融サービスを代替、あるいは新たなサービスを生み出すなどの動きを言います。

これまで、IT は、金融機関の業務効率化のために活用されてきました。それが、今、IT 技術を持つ企業が、新たな金融サービスの創造や新たな切り口からの進出などを始めています。効率化の手段に過ぎなかった IT が金融サービスの新たな創造や競争力を決定づける表舞台に登場してきたということです。

その FinTech の対象となる金融サービスには、どのようなものがあるのでしょうか。簡単に見てみましょう。

日本では、右の図に示すように、サービスには 6 つの領域があります。

「PFM (個人財務管理)」とは、個人の資産管理を行うサービスです。簡単に言えば個人向けの家計簿アプリで、金融機関の口座、カード利用履歴、企業のポイントといった情報を集約し、収支を見える化するものです。これは、従来の金融機関が持つことのできないデータが、急速に集まっている分野です。

個人向け「投資支援」では、人手を介さずに、プログラムが自動で一人ひとりに合った投資ポートフォリオを構築するサービスなどが現れています。

法人向けでは、「経営・業務支援」の分野で、クラウド型会計サービスなどがあります。

「スマホ/Web 決済」の分野は、すでに、激しい競争が起きています。この市場は、流通額に対する一定比率を獲得する手数料ビジネスであり、市場が巨大、かつ安定した収益が見込めるからです。

「オンライン融資」は、主に、EC 事業者などへの融資を短期に実行します。

例えば、楽天カードは、楽天市場の出店事業者向けに「楽天スーパービジネスローン」を行っています。独自の判定基準を基に、融資申込者の顧客評価、取引情報などを突き合わせ、ほぼ全自動で審査を実行します。最短で、翌日には資金を提供するとのこと。

「クラウドファンディング」は、不特定多数の出資者から資金を集めるものです。最近、定着してきたようです。

次に、インフラについて見てみましょう。大きな影響を与える可能性のある動きがあります。一つは、ビットコイン (銀行のような中央を経由せず、直接、1対1で、通貨のようなものを取引できる仕組み。) に代表される「仮想通貨」です。もう一つは、仮想通貨の中核技術「ブロックチェーン (Blockchain)」(簡単に言うと、仮想通貨の取引記録) です。通貨以外の株式や債券などで活用しようとする動きもあります。

	個人向け	法人向け
サービス	① PFM*	③ 経営・業務支援
	② 投資支援	④ スマホ/Web決済
		⑤ オンライン融資
	⑥ クラウドファンディング	
	インフラ	
	仮想通貨	ブロックチェーン

PFM: Personal Financial Management

FinTech は、「預金」「融資」「為替（決済）」という銀行の三大業務と呼ばれる分野に革新を持ち込んでいます。今後、金融の業界地図を、大きく書き変えてしまうような勢いがあります。

(参考文献)

1) FinTech 企業は銀行と違う “データ” を見る 決済から融資へ、移る主戦場

<http://itpro.nikkeibp.co.jp/atcl/column/15/061100147/061100002/?ST=ittrend&P=1>

(注)

本解説は、執筆当時の状況に基づいて解説をしております。ご覧になる時には、状況が変わっている可能性がありますので、ご注意をお願いします。

Copyright (C) Satoru Haga 2015, All right reserved.

<b>技術・経営の戦略研究・トータルサポーター</b>	工学博士 中小企業診断士 社会保険労務士(登録予定)
<b>ティー・エム研究所</b>	代表 <b>芳賀 知</b>
E-Mail: <a href="mailto:info_tm-lab@mbn.nifty.com">info_tm-lab@mbn.nifty.com</a>	URL: <a href="http://tm-lab@a.la9.jp/">http://tm-lab@a.la9.jp/</a>